



田中 千晶 新連載

保育現場で働いていた頃、日々なにか文章を書いていました。指導案、その日の覚書、子どものちょっとしたつぶやきのメモ、お帳面のお返事、クラスだより…ここ数年は「ドキュメンテーション」と呼ばれる写真をメインとした保育内容の共有方法も多かったような…。あとは子どもたちのお手紙交換！まあこれは書き物というより、娯楽というか、趣味というか…(笑) 当時は書き物に追われるあまり、タスクを潰すように「なんか書いとけ！」と自暴自棄になっていたことも多かったのですが、毎月末に発行するクラスだよりはていねいに時間をかけて書いていたように思います。子どもの姿を思い出して手が進んだり止まったり、自分の保育を振り返り、気持ちが浮かんだり沈んだり、サクサク進む書類ではなかった分、今まで発行してきたクラスだよりは捨てずに保管してたまに読み返しています。



2024 年からは大学院生になり、やれレポートだ、記録だ、修論だと相変わらず文章を書くことに追われる日々を送っています。しかし、自分が子どもと関わる中で感じたこと、子どもの姿を記録することはめっきりなくなってしまい、なんだかさみしい1年間だった気がします。

この連載を期に書き物を通して子どもと向き合うことを再開したいと思います。初連載、よろしくお願ひします。

森で出会えば・・・
P312～

本林 友梨 連載第二回

先日、所属する都道府県の臨床心理士会で、日々の臨床における多重関係の困り事について話題提供させていただきました。それぞれの先生方が持つ背景(養成大学院、臨床領域など)によって、様々な多重関係の捉え方がありました。「自身の境界をちゃんと持っていたら大丈夫」、「そんなに気にしなくても大丈夫」、「長いこと臨床やっていたら気にならなくなる」など、励まし？元気づけてくれている？にもとれなくもない意見もありましたが、「クライアントから発表会を見に来てといわれてしまった」、「プレゼントを持ってくるのがよくある」など、多重関係に関する倫理的なところ(境界)に悩む先生方も確実にいらっしゃいました。

私の印象では、経験が長い先生方からは励まし？のような意見があり、比較的経験が浅い先生方がこの種の問題を切実に抱いているようでした。心理臨床に関する多重関係の影響はどうかはこれからですが、やはりこの問題に向き合う価値を感じました(中には、「心理士になる時点で生活者としての自分を制限する覚悟はできている」という先生もいらっしゃり、自身の覚悟のなさを恥ずかしくも思いましたが…)

心理臨床における多重関係を考える
P308～

高名 祐美

もうすぐ 65 歳になる。法律でいう「高齢者」の仲間入りだ。もうすぐ介護保険証も届くだろう。母は 61 歳で亡くなったので、

母の年を超えて生きている。娘二人は家庭を持ち、5 人の孫にも恵まれて「ばあば」としての人生も生きている。そんな節目に、これからをどう過ごしていきたいかを考えてみる。

まだまだ現役のソーシャルワーカーとして個別支援にかかわって行きたい気持ちはあるが、そろそろ引退すべきなのかとも思う。なにかに追われている日々はもうおしまいにしたいと思う反面、それはそれで寂しいようにも思う。夫は「いつまで仕事をするのか」と言う。しかし、長女がこう言ってくれた。「お母さんは仕事が生きがいなんだから。仕事をやめたら死んでしまうよ。好きなだけやるのがいいよ」と。そうなのか、自分は仕事を生きがいにしてきたのかと気付かされる。

年のはじめに立てた目標は「楽しむこと」。趣味を楽しむ時間を大切にしたい。来月から、孫と一緒に琴を習い始める。ゆったりとした気持ちで琴の音色を楽しめるように取り組んでいこうと思う。

スクールソーシャルワーカーの
仕事
P241～

水野 スウ

2月のある土曜日、学童の子どもたちに憲法のお話をしました。私が出かけていく前ではなくて、愛知県からはるばる電車をのりついで、学童の小学5、6年生が親ごさんたちと一緒に石川まで来て、わが家で私の話を聞いてくれたのです。

この10年間、憲法のお話の出前にたくさん出かけ、時に子どもや若い人たちに向けて話すこともあったけれど、私のホームグラウンドで憲法を聞いてもらう、なんて機会はほんとにまれ。なので今号は、「子どもたちに、憲法と紅茶の時間の話@紅茶の時間」の誌上実況中継、というスタイルで書いてみました。限られた時間内で小学生に憲法を語ることも、それをできるだけ実況に近い形で文章化することも、ともにチャレンジング。このマガジンだからこそできる試みかも、と楽しみながら書いてみた！よ。

学童クラブでは、お話会翌日におとなたちも混じってのふりかえりの会をしたそう。後日、その音声を聴かせてくれました。へ

え～、そんな風に感じたんだ、あの言葉、ちゃんと受け取ってくれてる、と何度もほっぺがゆるみ、はっと気づかせられ。ふりかえりタイムの最後は、学童の先輩たちがつくって園に残してくれた学童憲章を、どう自分たちのものにしてどう引き継いでいったらいいのか、子どもたちが真剣に話しあった。やるなあ、子どもたち。

話した私と、聞いた子どもと大人たち。一人ひとりのレスポンスを聴かせてもらい、それに対する私からのレスポンスが今回のマガジン原稿なわけで。ああ、ここでもその日手渡したキーワード、「行ったり来たり」の循環が起きている。

憲法についてはこれまで何度もマガジンに書いてきましたが、実況スタイルははじめて。私にも新鮮な体験でした。読んでいただけたらうれしいです。

きもちは言葉をさがしている P98～

馬渡 徳子

2025年 元旦の16時10分。

私は、友人の高名祐美さんの夫様のご住職を務めておられるお寺が、鎮魂と復興を祈る鐘を鳴らされることを伺い、能登に向けて黙禱・合掌した。

とりわけ前日からその時刻を迎えるまでは、胸がざわざわして落ち着かなかった。結婚41年目にして、初めておせちもつらなかった。記念日反応と言うらしい。

ご近所のどなた様とも、「あけましておめでとう」のご挨拶はなく、皆さん一様に「(無言で礼)・・・今年が良い年になりますように」だった。

そういえば、12月から年賀状欠礼ではなく、今回は年賀状仕舞いの葉書を沢山いただいた。LINEも元旦はゼロ件で、2日の夕方に集中した。

1月6日 子ども食堂には能登の半壊状態のままの祖父母宅や、仮設住宅に入居となった祖父母の下に帰省したりした子どもたちが来所した。帰省先には、まだ上下水道が完全復旧していない地域もあることから、希望者にペットボトルと簡易トイレをお持ち帰りいただいていた。

「のどのひいばあばに、あいこいったよ。おはかまいりはできなかった。おみずもつていったよ。」

「おとしまに『てんごくのひいじいじより』とかいてあった。おてがみかいたよ。」

「やっぱりぼくは、のとへかえりたい。のどのほいくえんとかっこうへいきたい。パパとママにいうたらだめやよと、じいじにいわれたけど、パパにいうたんや。」その後、パパは能登の保育園に連絡し、「卒園写真を撮るときに連れてくるので、混ぜてやって欲しい。」とお願いされていました。「卒園式がかぶったので、改めて連れてくること。卒園証書と卒園写真をお渡します。実は、パパはこの卒園児です。自分の気持ちをパパに言えて良かった。パパは嬉しかったと思う。」とその保育園からご連絡をいただきました。

勤務先の保育園には、一方の親が職業特性のため被災地を離れられない二次避難継続中の子どもたちもいる。「ばいばいするとき、みんなないよ。ぼくも〇〇も△△も、じいじもばあばも、みんなさみしい。」登園初日に「はばたくとりの折り紙を持ってきた。「これしつとる? はばたくとりっていうげんよ。かなしいことやこわいことがあったら、これをうごかしたら、こころにまほうがかかってふきとばしてくれるげんて。いっこ、あげるね。」



私は、その「はばたくとりの御守り」を保育園において、「今日も安全に過ごせますように。おもしろいことがいっぱいありますように。」と声をかけている。

なんと、その子が、ふいに「きょうわすれたし、ちょっと、かして」と言ってきて、その後いきょうだいや友だちに魔法をかけている。そんなわけで、ひとり占めできない。(笑)

今号は、本文をお休みいたします。

馬渡の眼 休載

乾 京子

トランプ大統領になって、一か月余り、(えっ、冗談でなく本気? うそでしょう?) というようなことが次から次に起こっていて、目を耳をふさぎたくなるような事ばかり。テレビや新聞を見るたびにうんざりしています。ドイツも極右政党が議席をのぼしているとか。ガザやウクライナに真の平和がやってくるのでしょうか? その間にも氷河が解け、南極から巨大な氷山がオーストラリアに近づいているとか。・・・大きなことは見ないでおこう。近場のちいさなことに喜びを見出そう。・・・腰痛や膝の痛み、身体のあちこち痛くなって、ついつい引きこもりがち。ますます近視眼的老人になりそうです。困った! 困った!

じゃりんこ文庫 P305～

宮井 研治

久方の孫近況をお伝えする(したいだけです)。彼も年齢3歳を過ぎ、よく笑い、よく食べ、成長曲線は身長体重とも、平均を大きく上回っている。たまに、じいじが調子に乗って抱っこでもしようものなら、ズシリと成長の重みを体感させられる始末である。この間の最大のエピソードとしては、妹の登場であろう。人生最初のライバルの登場である。彼の運命や如何に! であったが、安泰である。彼の内面は推し量れないが、兄妹仲の滑り出しは好調である。兄は鼻水を垂らしながらも、事あるごとに妹に頬をすりすり(親は感染症対策の観点からヤキモキ)。妹も年齢6ヶ月であるが、兄を目で追いかけて、声にならない喃語を投げかけている。たまにじいじと目が合うと泣く。認知の発達を目の当たりにするじいじであった。

そんな彼の成長譚をひとつ。YouTubeなどの動画で、話が展開するときに、「ドン!」という効果音が使われるのは御存じでしょう。孫にウケるので、なにかという孫との会話に「ドン!」を、多用しておりました。ドン、ドンと乱れ太鼓のように。ある日、孫から指摘を受けます。「じいじ、ドン、ドン言い過ぎ。ドンはいつも言わないよ。」といった内容でした。この効果音の使いどころを、年齢3歳にして理解して

いるということが即座に伝わってきました。そして、その解説力。恐るべし、3歳児！さすが、わが孫なり！

人生は対応のヴァリエーション P300～

山岸 若菜

今年は京都にも雪がよく降っています。少し積もった日があり、小6の子どもと雪合戦をしたり雪だるまをして遊びました。はじめは普通に雪を丸めてぶつけ合うだけだったのが、『水を含ませると硬くなる』と気づき始めると、寒い中公園の水道でわざわざ雪に水をかけ、周りも水やのになぜあえてまた水を・・と思う大人の気持ちなんて知ったこっちゃない感じで必死で硬い雪弾を作ってはぶつけてきました。その硬いほぼ氷弾は当たると痛いわベチャベチャになるわで、思わずこちらのテンションも高くなり思いのほか楽しかったです。



たまにしか雪が降らない土地はこんな悠長なことを言っていますが、雪の多いところは大変だったことでしょう。早く暖かいでも暑くない季節にならないかなと待ち遠しい思いです。

ある訪問看護師のあたまの中 P296～

内田 一樹

先日、足を捻挫しました。捻挫してすぐはあまり痛くなくいつも通り過ごしたのですが、翌日、翌々日と痛みが酷くなり歩けないほどになりました。病院を受診したところ、骨は折れていないそうですが人生で初めてのギブスと松葉杖

生活を2週間ほど(予定)送ることとなりました。自分が松葉杖生活をしてみると世の中の見え方が全く変わりました。なぜこんなにも段差が多いのか、駅の改札等で手間取ると申し訳なく感じ、一方で誰かにケアされようとするとなかなか素直に受け取れない。ちょっとした新しい発見でした。当事者になってみて気づくことがあるのかもしれないけれど、一方で当事者にならなければ気づけなかった想像力の欠如があったかもしれません。

さて2024年12月、「東北と復興」では3年目で初めての福島県浜通りスタディツアーを実施しました。今回はその事前学習とスタディツアーの報告、生徒達の学びとそこから生まれた問いについて書いています。

社会科の授業を対人援助学の 視点から P273～

櫻井 育子

いよいよ2025年が始まった、というのを感じたのが最近。年を越したんだか開けたんだか分からないうちに3月になってしまった。教員を辞めてから9年経つというのがちょっとびっくり。なんとかここまで生きてこれたから、これからはなんとかかなるのだな、という感覚になって最近さらさら調子に乗っている。「調子に乗る」という言葉を使うようになって、さらに調子に乗れるようになった。言霊。出会うことも、話すことも、表現することから始まるのだ、と思う最近。

生涯発達支援塾 TANE 代表

shukou0122@gmail.com

<https://ikuko-sakurai.com>

わたしはここにいる P268～

鳴海 明敏

県庁職員を定年退職した翌月に新規開設された、情緒障害児短期治療施設(現在は、児童心理治療施設)の園長を引き受けてから、15年目に入っています。

園長室には「こかげ」という名前がつけられています。ということで、サブタイトル

は「こかげのにちじょう」とします。紹介する子どもたちについては、それなりのカモフラージュを施しています。

昨年9月の末に、軽い脳梗塞を患って、10月の初めに2週間ばかり入院しました。現在は、退院して職場復帰していて、車の免許の更新も無事に終わりました。

私は現在、施設長と法人の理事長を兼務しているのですが、園長の仕事は、施設開設以来一緒にやってきた「初期メンバー」の一人で、現在支援課長をしている方に引き継ぐことになって、4月からは、理事長に専念することにしました。

園長を引き受けた時から、いつどんなタイミングで、誰に引き継ごうかと思案してきましたが、今回倒れたことで、スムーズに決断が出来ました。

2月の20日、21日は、名古屋市で全国施設長会議が開催されたのですが、この3月で園長を退く方が8名おられました。その方々と一緒に退任のご挨拶も出来て、良かったです。

県職員として38年、施設長として15年でした。その間、仕事優先で、子育てから何もかも、奥さんに支えて貰った53年間でした。今思い返せば、仕事を口実にして、いろいろなことから逃げてきていたんだなあと思いました。これからは、奥さん孝行に励もうと思っています。

施設長だから、ということで引き受けた連載で、タイトルもそのようにしていたので、これからどうするか、少し思案したいと思っています。

児童心理治療施設の園長室から ～こかげのにちじょう～ P266～

高木 久美子

以前1週間程度の入院をした時、退院した帰宅時に玄関に出て来た飼い猫は、全身を総毛立ててシャーッと私を威嚇しました。今回はそれより入院期間が長かったので、飼い猫たちは私を忘れてしまっているのではとそれが一番の心配でした。でも、今4匹いる猫たちは、こちらが拍子抜けするほど自然体で、大歓迎もない代わりにシャーもなく、まるで昨日もママはいたよね、今日もいるよね、それよりトイレ片づけてと、そんな感じのあまりの何気なさに、

諸々に身構えていた私は肩の力が抜けて、猫のおかげですと日常生活に復帰できたような気がします。1回の休載で無事戻れて、しかも60号！に書くことができても嬉しいです。

ヨミトリとヨミトリ君で一緒にしましょう！ P257～

畑中 美穂

焼き物の窯の多くある小さな城下町にでかけて器を買い求めた。大きめの湯呑みといったサイズで、持ち手のついていないティーカップという雰囲気。“出会い”がなければ買うつもりはなかったが、おもしろいものでその器は私を待っていたように“そこ”にあった。棚に並ぶ器はたくさんあるけれど、どうしても“これ”なんだな。

そういえばずいぶん前にインドネシアの小さな店で、シルバーの台に瑠璃色の石のついた指輪を見つけ、悩んだのちに「少しサイズも大きいからな」と買わなかったことがある。でもどうかな、そのことはちょっと後悔している。海よりは濃く、たくさん泳いだプールのタイルと同じ色。でも後悔するくらい、心に残っているのも確か。「そういうのもいいのかもしれない」と思いつつ、両手で持つ器のミルクティーを飲む今日。

一語一絵 P243～

山下 桂永子

二日前から鼻水がフリーフォールです。とめどがないのでこの文章もティッシュを鼻に詰めて書いております。今のところ花粉症は発症していない(はず)なので、風邪かなあ久しぶりだなあと思いつつ、熱を測ってみたら、37.2°と微熱があり、どうやら風邪のようです。それにしてもいつからいつのまに毎朝体温を測らなくなったのでしょうか。2020年の2月ごろからは毎日測っていたはずなのに。良いことを続けることは大変なのに、良いことをやめることや悪いことはあつという間に習慣化してしまう恐ろしさがあります。

対人援助マガジン60号おめでとうございます。これからも末永く続きますように。私も続けられますように。内容とは関係はないのですが読んで頂ければ幸いです。



先月、両親と言った
雪の白川郷が最高でした。

心理コーディネーターに なるために P158～

渡辺 修宏

ついに来た。これが老眼か……。なるほど、世間が騒ぐわけだ。メガネをはずしたり、つけたり。従来どおりには本を読めない。いろいろ不便だ。

対人援助実践をレポートする この一冊 P246～

米津 達也

息子の大学受験がようやく終わった。最終的に彼の希望するところにいけるようだ。努力は常に報われるとは限らないが、その努力は必ず何かを変えてくれる。努力できるだけの環境も必要だが、与えられた環境は運に左右される。じゃあ、人生は運任せかと言うとそうでもない。日々、選択できることはあるはずだ。ここ最近、ランニング頻度を増やした。寒さは厳しいが、この瞬間、走るか走らないか、それは私が選べる人生だから。

川下の風景 P239～

玉村 文

育休コミュニティで過ごしてきた時間も、残り2ヶ月を切りました。4月には復職予定

です。先日、このコミュニティで団先生をお招きし、「物語から学ぶ家族力」という1時間のオンライン講座を開催しました。中国やフィジーからの参加者もあり、駐在帯同中の方々にもご参加いただきました。講座では、「木陰の物語」の紙芝居3作を団先生に読み解いていただき、その後、参加者同士で感じたことを語り合いました。

対人援助職ではない会社勤めの方が多くなか、「家族を学ぶのは初めてだった」という声や、「木陰の物語に触れ、思わず涙がこぼれた」という感想が寄せられました。アンケートにも、多くの気づきや心の湿度を感じる言葉が並び、家族について学ぶことが、人の心に深く響くことを改めて実感しました。

今回の企画を通じて、私は「家族を学ぶことはおもしろい」「自分の家族を振り返る大切さを、対人援助職以外の方にも伝えたい」「コミュニティの枠を超えて価値を届けたい」「働く母親たちを応援したい」という思いを再確認しました。

これからも、越境と共創を大切に、家族について学び、語り合える場をつくっていきたいと思います。そんな今回のマガジンのテーマは「帝王切開」。経験者同士で「帝王切開のお産のふりかえり」をしてみたいの気づきをまとめました。

応援 母ちゃん！ P231～

川畑 隆

年に3回ほど高知県の四万十市に仕事でお邪魔しています。京都から岡山まで新幹線で1時間、岡山から在来特急の“アンパンマン列車”で高知まで2時間30分、そこから乗り継いで中村まで1時間40分、自宅を出てから6時間弱の長旅です。伊丹から高知まで飛行機も利用できますが、竜馬空港からのリムジンバスが数少ない特急電車に間に合うかどうか微妙で、結局JR+くろしお鉄道のお世話になっています。

瀬戸内を渡り、丸亀製麺発祥の地(丸亀)のことをこう書いたのですが、編集長から「それは誤解で、丸亀製麺は加古川創業

の焼き鳥屋から展開したうどん屋だ」とご指摘を受けました。浅慮自戒と感謝を過ぎ、大歩危・小歩危(おおぼけ・こぼけ)を経て、仁淀川、ほんのちよつとの太平洋、そして四万十川を観て終着です。そういった景色が“おいしく”て、車窓を眺める時間が圧倒的に長かったのがだんだん短くなり、読んだり聴いたり以外はウトウトと退屈が大部分をしめるようになって、その次は映画やドラマの録画持ち出し。映画を続けて3本も観るとそれ以外何も見てなかったってことになったりしながら、この没頭からもだんだん解放されてくると、またボンヤリと景色を眺める時間が増えてきます。

出かけたら当然帰らなければならないわけで、考えてみればナント贅沢な往復12時間。ちょうどよい過ごし方のバランスを手に入れてきているんだと思うんです、ええ。

私のあたまの中のケシゴム P226~

杉江 太朗

児童福祉領域で働く杉江と言います。絶賛営業中のカフェ・ドゥ・スギエ(職場にコーヒーマーカー置いてる)ですが、現金一択というこのキャッシュレスの時代に逆らった経営をしております。1杯 60 円(今はタイムセールで 50 円)から飲めるのですが、支払いが現金のみのため、小銭が多く貯まります。今や小銭の入金には手数料がかかるため、その取り扱いに頭を悩ませている経営者は私だけではないはず。そんな中、ついに新札での支払いがあり新鮮な気持ちになりました。今さらと思われる方もいるかもしれませんが、私自身、普段は現金を使わない生活をしています。パーキングにとめるときに、支払い方法が現金のみと気付かず後から ATM まで走ったことがあります。小銭の処理に困りながら、小銭がなくて困るという需要と供給を一人で成り立たせています。

「余地」-相談業務を楽しむ方法- P219~

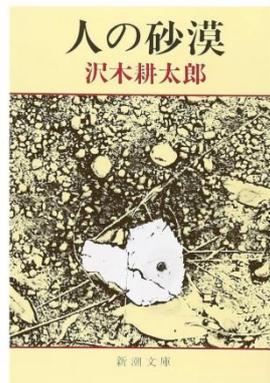
浅田 英輔

「第四半期はないようなものだ」と言わ

れたことがあるが、師走以上に時間が経つのが速く、もう2月が終わる。トシをくうと時間がはやいともいうが、本当にそれを実感している。大学院生に「行政にいる心理職」として話す機会があったが、自分のこれまでの仕事をパワポにして何をしてきたか説明するのは面白い体験だった。プレゼン資料を作ってみるとよいですよ！

臨床のきれはし P122~

三浦 恵子



「人の砂漠」(新潮文庫 沢木耕太郎氏)のなかに収められた「棄てられた女たちのユートピア」で登場する女性自立支援施設「かにた婦人の村」(ベデスタ奉仕女の家の新居住棟が完成しました。日本で唯一長期入所が可能な婦人保護施設(当時の名称 困難女)として開設したのが1965年、私が「人の砂漠」でその活動を知った時はまだ学生でした。あまりに過酷な人生を送ってきた女性たちや、それを支援する人々の姿勢に圧倒されました衝撃を受けました。

奉職後、別の地域の婦人保護施設と関わる際に「かにた婦人の村」の活動を思い浮かべながらも、直接の接点はありませんでした。しかし、新居住棟の建築資金を募るクラウドファンディングが開始されたという情報に接しました。これは私的なことですが私はある節目の年を迎えていました。お祝いと称した豪華な食事など個人的なモノに費消するのではなく、後々に残ることをしようと考え、少しですが家族でクラウドファンディングを気持ちを寄せました。資材の高騰などで予定より費用が嵩んだ際にもさらに支援をいただく機会がありました。婦人保護施設は、令和4年に

制定された「困難な問題を抱える女性の支援に関する法律」が令和6年4月に施行されることに伴い、女性自立支援施設という名称となり、支援の内容もより充実したものになっています。

自立支援は施設のなかだけではなく、社会の側も変わっていかないと難しいと実感しています。そしてその実現のためには、制度改正・構築というものだけではなく、個々の人間が社会課題を知り、意識を向けていくことが必要だと改めて考えています。

更生保護官署職員

(認定社会福祉士・認定精神保健福祉士)

現代社会を『関係性』という 観点から考える P208~

迫 共

去年 9 月、広島県福山市の児童養護施設で生活をする子どもたちを対象にした子どもアドボケイトの共同研究に参加した。子どもは自分の処遇検討会議に出席し、意見表明を希望するものかどうか。性別と年齢で 4 班に分け、小学生男子組を担当。「自分の意志が最終的に通らなくてもいいから参加したい」という子が多かった。協力してくれた子どもたちに応えるためにも、論文にまとめる作業を進めている。

インタビューなどの様子が、この 2 月にNHK のローカル番組「お好みワイドひろしま」で紹介された。自分たちが参加した研究が、少しずつ形になっていくのは嬉しいことだ。子どもたちの意思表示が尊重される取り組みを、さらに進めたい。

迫メアド: sakotomoya@gmail.com

保育と社会福祉を漫画で学ぶ P216~

黒田 長宏

心筋梗塞の手術から生還して1年を超えることができた。そして婚活アプリを9つもやっている状況だ。57歳。なんだろうこの人生は。しかし成功事例として婚活を成就することで、その前例は対人援助の前例ともなるはずだ。私が出来たなら誰かも

出来る。だから諦めない、なんとかこの連載で証明したい。

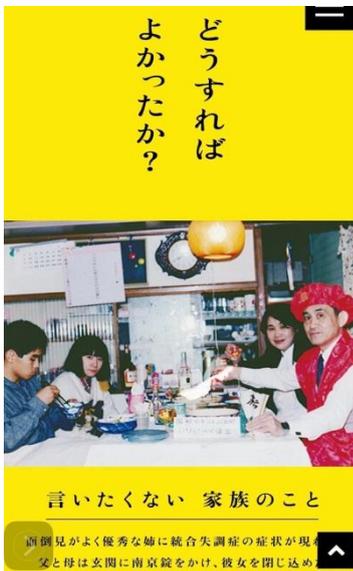
<https://konnankyujotai.jimdofree.com/>

あゝ結婚

P181~

松村 奈奈子

映画「どうすればよかったのか？」を昨年末にみました。統合失調症の娘の治療を拒む両親との生活を、弟である男性が記録した映像です。精神科にまつわる業界の人がみたら上映が終わってしまうのかなあと公開後あわてて見に行きました。ミニシアターのスケジュール表でも短期間で上映を終了する予定みたいな感じでした。ところが予想に反して、たくさんの方がこの映画をみて、年明けの2月を越えてのロングランとなり、大きな映画館でも上映されるようになりました。精神科に関わる人間としては、多くの人に見て頂きたい思いはあります。と、同時に、いったいみんなはどんな感想をもったのかなあと気になっています。



精神科医の思うこと

P147~

村本 邦子

台湾に来ている。今日はたまたま台湾の「二・二八事件」の記念日にあたり、街中のあちこちで記念イベントが行われていた。人権意識も高く、若者たちの活動に感

銘を受ける一方で、現在の台湾は、与党と野党の勢力が拮抗し、民進党が積極的に推進してきた「転型正義」(独裁時代の人権侵害を清算し、正義を回復するための取り組み)も今後どうなっていくのか不安定な部分がある。日本の植民地主義と皇民化政策はその大きな要因のひとつであるが、台湾ではルーツや世代によって異なる歴史観や価値観があり、それぞれに分断させられている。知れば知るほど対話や和解は難しいと思われ、福島の問題とも重なって見えてくる。世界はこれからどうなっていくのか?!

周辺からの記憶

一東日本大震災家族応援プロジェクト

P135~

國友 万裕

僕は元々せっかちで締め切りを遅れたり、ギリギリに出したりとかはできない性格です。そのため、対人援助学マガジンの原稿もいつも一番だと前に編集の方から言われたことがありました。

ところが、今回はギリギリになるともって編集部連絡していたのですが、2月20日鼠蹊ヘルニアの手術をする予定になっていて、その手術の様子を原稿の中に含めたいと思っていたからです。

しかし、それが、2月の3日にコロナに罹患してしまったため、外科の先生からヘルニアの手術をしばらく遅らせてくれと言われてしまいました。病院のルールで、すぐにコロナの後手術をするのは好ましくないということらしいんです。

そのため、結局は原稿ギリギリにはなりません。といてもいつもよりは遅めの提出です。

今回の原稿が出る頃には僕は61歳です。原稿にも書いていますが、老いを見つめるという生活になってきました。

まだうちのおじさんは90で生きているし、母もおばさんたちも80代で生きている。しかし、みんな誰かに頼らなくては生きれない状態になってきている。人間は徐々に枯れていくんです。本当に悲しい。

若い頃の方が辛いことは多かったけど、でも、その代わりに、若いからこそ夢があった。でも、60代になって、どんな夢をもったらいいの???今更ブレイクできるのか

な? こんなことばかり考える毎日です。

しかし、最近、僕の本を読んでくれた関東在住の人から手紙が来ました。「これまで自分が言いたかったことを、言語化してくれてありがとう」という内容でした。知らないところに僕の隠れファンがいるんだなあと嬉しくなりました。

もっとこの輪が大きく広がってくれればいいけれど、もう難しいのかもしれない。僕は単著を4冊出して、それなりに好評ではあったんだけど、いかんせん有名な本とは訳が違うので、読んでいる人は一握り。

これじゃあ、男性学は広がらない。でも、それはそれでいいのかもしれない。僕の書いたものが誰かの心に響いたという思いがあれば、それを支えにこれからも執筆を続けていけるでしょう。

命ある限り。歩み続けたいと思います。

スポーツおじさんになりたい!

P109~

竹中 尚文

12月の中頃に交通事故を起こした。自動車専用道路を走行していて、追突事故の加害者になった。居眠りをしていてではない。車間距離も保って、順調に走行していた。前方に車が停車したのだけれど、「まさか!」と思った。停車していると認識したときには、遅かった。「自分の車が止まらない」という恐怖の時間だった。◆誰もが交通事故には気をつけている。私も気をつけて運転をしている。しかし、気をつけたから絶対に交通事故を起こさないというものではない。そのことは分かったつもりで、交通事故の確率の少ない選択をしてきたつもりである。確率は低いが、やはり事故は起こしてしまった。そうしたことがあると思っていたのだが、実際には恐怖の時間だった。◆相手方の自動車も自車も全損だったが、けが人はなかった。そのことが何よりありがたいことだった。しかし、ちょうど2ヶ月が過ぎた2月中旬になって、私の右手が痛み出した。手、腕、肩と痛みが広がり、歯が浮き、頭痛に悩まされた。咀嚼はできないし、キーボードを打てないし、困った。整形外科に行ったら、やはり骨に異常はないという。義子が整体師をしているので、診てもらった。衝突

の時にハンドルを持つ手で身体を支えたのだが、その方向のために腕や肩の筋肉が少しずつずれた方向に引っ張られているらしい。彼が賢明に治療してくれて、ようやく「執筆者短信」が書けるようになった。

路上生活者の個人史

P107～

坂口 伊都

2月15～16日の日程で、マガジン合宿に参加しました。団先生、千葉さん、大谷さん、杉江さんと私の5人でした。こじんまりした人数だったのが功を奏したのか、時間がある限りこれでもかというぐらい話し、話題が尽きませんでした。周りからは、世間話が弾んでいるグループに見えていたと思いますが、実はなかなか深い話をしていたのです。

話題はいろいろとありましたが、印象に残っているのは、世の中の常識になっていることを自分自身も知らない間に受け入れていて、疑うことを忘れてしまっているということです。被害意識を抱くことに関しては、その傾向が強いです。強みも弱みも紙一重、どう解釈するかで内容が変わってきます。子どもを出産し、育てながら仕事を続けていくことで葛藤を抱えていましたが、団先生の「普通はできないかの議論になれば、できる方が優位になるものだがなあ」という言葉にハッとしました。自分を弱者に置か置かないか、それは自分で決めていいのだと思います。被害感情で自分を縛るのは、もったいないのだと気づきました。被害感で、自分自身に言い訳を与え、未来を閉ざしてしまっていたのかも知れない。世間の常識は、当てにならないと再認識しました。

療育手帳の向こう側

P130～

河岸 由里子

【巷の小話その3】

若者の言葉の変遷は著しい。ちょっと前には「チョー〇〇」とか「メッチャ〇〇」或いは「とりま(とりあえず)」など省略が流行っていた。今も省略形はある。「了解」が「りょ」になり、「り」へと変化した。「あーなるほど」が「あね」などもある。LINE など SNS

では文字をなるべく少なく打とうということから、省略されていくのは理解できるが、どの言葉がどういう意味か、年寄りには着いていけない。下の表で、皆さんはどれだけわかるだろう？

1. ま?	15. イチキタ
2. り	16. 草、大草原
3. あーね	17. はにゃ?
4. とりま	18. びえん
5. わんちゃん	19. エモい
6. 希ガス	20. チルい
7. タビる	21. マギか
8. きまZ	22. ちよえ
9. おしゃピク	23. アセアセ
10. KP	24. 大丈夫そ
11. スバタリ	25. 勝たん
12. メンブレ	
13. ガンダ	
14. フロリダ	

そんな中、先日「〇〇界限」という言葉をきいた。その時は「風呂キャンセル界限」であった。朝シャンとか言って、毎朝シャワーを浴びていた若い世代が、風呂に入らなくなったのか? 「界限」とは何ぞ? と思いネットで調べてみた。「界限」は2025年最新のトレンドとある。この言葉は SNS でよく目にされるようになった。2024年の「新語・流行語大賞」にもノミネートされたそうだ。「界限」の意味はももとの「あたり」とか「周辺」と言った意味から「共通の関心や価値観を持つ人々のコミュニティー」を指す言葉で、特に Z 世代が「仲間」「近い存在」「同様の興味や行動パターンを持つ人々」といった意味合いで使われるようになったという。

例として: 「伊能忠敬界限」(伊能忠敬のように長距離を歩くことを好む人、仕事や趣味で長時間歩く人々)、「自然界限」(自然を楽しむ人々や行動を指す)、「風呂キャンセル界限」(何らかの理由でお風呂に入ること自体をキャンセルしたり、入る時間を先延ばしにするとした経験を共有する人々。面倒がる人々)、その他「謎解き界限」「筋トレ界限」「鉄道界限」「教師界限」「スタートアップ界限」「ママ垢界限」「闘病界限」等々沢山ある。(以上 KEEN より)

要は「仲間」に近いのかなと思うが、こうした言葉を共有することで、SNS 上の繋がり、コミュニティーが活性化し、孤立感を防ぐ役割を担っているのかもしれない。「ガングロ」「腐女子」などは化石になって

いる今、年寄りの私には、それこそ「いみふ」が多いので、高校生や大学生に教えてもらいながら、コミュニケーションが取れるよう頑張っている。

<上記票の言葉の意味> 1. まじ?、2. 了解、3. あーなるほどね、4. とりあえず、5. ワンチャンス・もしかしたら、6. ~な気がする、7. タピオカ入りの飲料を飲む、8. 気まずい、9. おしゃれなピクニック、10. 乾杯、11. スーパーダーリン、何でもできる完璧な男性、12. メンタルブレイク・精神崩壊、13. ガンダッシュ・全力疾走、14. 風呂の為メッセージのやり取りから離脱する、15. 一時帰宅、16. 笑いを表すwを連続入力すると草のように見えるから。大草原も大笑いの意味になる。17. 「あれ?」というようなニュアンス。理解できない時やとぼける時などに使う、18. 泣いているさま、19. 心が揺さぶられる、なんとも言えず素敵な気持ちになったときに使う、20. ゆっくりする・くつろぐ・ゆったりする、21. まじか・本当か? 22. ちよと待って、23. 慌てて汗をかいているさま、24. 大丈夫そう? 大丈夫か?、25. 勝たない、「しか勝たん」は最高の意味。

公認心理師・臨床心理士・北海道
かうんせりんぐるうむ かかし 主宰

ああ、相談業務

P73～

先人の知恵から

P169～

大谷 多加志

2025年2月で、以前マガジンでも書かせて頂いたことがある、同志社大学赤ちゃん学研究センターでの調査が完了となりました。2018年から8年ほど通わせて頂いたのですが、赤ちゃん学研究センターが同志社大学の学研都市キャンパスから京田辺キャンパスに移動することになり、それに伴って学外機関との共同研究が終了することになったためです。とても希少な研究機関だったと思うので、移転縮小は残念ではありますが、ここまでお世話になったことには感謝しかありません。一方で、大きな組織の中で、希少な機能を担っているものであっても、ふいに終了を迎えることになることには一抹の無念さがあります。代わりに、自分の研究室で細々とですが赤ちゃん研究を続けることにしました。

長く続けることの難しさを知っているからこそ、できる限り息長く取り組んでいけるように整えていきたいです。

発達検査と対人援助学 P124~

鶴谷 圭一

マガジン発行 60 号おめでとうございます！

アソブロックが主催する家族理解ワークショップに参加を始めてしばらく経った頃、「新しいタイプのマガジンを考えている」と団士郎先生から話を伺いました。幼児教育が専門の自分が対人援助の仕事をしているという意識は無く、「鶴谷さんも書いてよ」と言われたとき即答はできなかつたと思いますが、「論文じゃなくて、自分の仕事の周りのこと、その人が現場でどんなことをして、どんなことを考えているか、そんな発信ができればいいんだ。」ということをお話し下さって、幅広くとらえてみたら幼児教育も対人援助と言えるのかなあ？福祉系の知識が全く無い自分にも書けるのかなあ？と戸惑いながらスタートした気がします。(15 年も経ってしまったので、記憶は曖昧ですが…)

なんとか今号も〆切に間に合うことができました。

2回お休みしているのですが、58 回掲載して頂いていますが、マガジンを読んだ保育雑誌の出版社から特集を組みたいと話があったり、焼き芋の焼き方について他の園から問い合わせがあったりと、多くはありませんがなんらかのアクションが生まれたりしてオモシロいなあ、と感じています。

園の仕事を整理して書いたり、職員の研修に使える資料がこれだけ蓄積されたことは、自分の財産を作ってきたようなもので、参加させて頂いたことを心から感謝しています。ボクが引退するまでか、ネタが尽きるまでか…マガジンが続く限りは書かせて頂きたいと思います。

原町幼稚園 <http://www.haramachi-ki.jp>

メール office@haramachi-ki.jp

インスタ haramachi.k

ツイッター haramachikinder

幼稚園の現場から P58~

中村 正

昨年の今頃は退職準備のために相当な労力を費やした。一年経って、こんどは創業した一般社団法人 UNLEARN の仕事の定着に忙しくなっている。それでも周りからは「楽しそうに退職しましたね。」とよく言われる。やりたいことをやっているからだろう。そう見えるようだ。この 3 月には以前と同じビル内の事務所風の場所に拠点を構えた。カフェスペースでもグループワークを継続している。JR と地下鉄東西線の二条駅至近の場所だ。3 月いっぱいかけてグループワークや個別相談ができるような空間に設えていくつもり。正式なホームページも開設予定である。脱暴力の拠点にしたいと思う。休むことなく連載している「臨床社会学の方法」はそのための考え方の整理のように書いている。まだまだ社会の暴力はなくなるどころか拡大している。脱暴力を基礎づけるための男性性ジェンダー研究に関心をもつ若い研究者も育ちつつある。以前からやってきたこととはいえ、体制も整備するので本格稼働が楽しみな日々である。

臨床社会学の方法 P22~

団 士郎

ちょっとしたきっかけで、東京/神田神保町が近く思えることになった。始まりは東京家族理解 WS。今回の会場が前回に引き続いて神田にある日本教育会館会議室だった。神田では以前にも東京堂書店の会議室を会場にしたことがあった。

今回の日程の週初めから大寒波襲来の天気予報がやかましかった。いつもは土曜の朝出発して、午後 13:30 からのプログラムに十分間に合う。ところが週末の予報は大雪の可能性。少人数とはいえ全国各地から来て下さる WS に、講師が新幹線の遅れで来れませんは無責任だろう。そこで金曜に前泊することにした。近くが良いのでトリヴァゴで探して神田にホテルを取った。

金曜日、ゆっくり目の道中は、いつものように audible を楽しもうと、未読の作家のものを選んだ。原田ひ香著「古本食堂」、

知らなかったがこれがドンピシャ、神田神保町の古書店が舞台の話だった。



ホテルはずらんと通りに面した、前が古書店という立地。早めにチェックインして早速出かけた。一軒目で二冊、二軒目で一冊と大形本を購入したところで焦った。キャリーバッグにもう入らない。

古書店巡りはそこまでにして、早めの夕飯をと通りの中華屋に入った。賑わっていたが入口近くの寒い席でも良ければと案内され、美味しい定食を食べた。そしてコーヒーでも飲みながら、先ほど購入した本を読もうと考えた。ホテル前の斜めの筋に個性的な昔ながらの喫茶店があったので、そこにした。

ゆったり楽しんだ後、部屋に戻って風呂で audible の続きを聴いていた。すると今食べた揚子江菜館と喫茶ミロンガヌオーバが登場したではないか。ますますこの辺りをうろちよろしくなった。またゆっくり来よう。

晩年 D・A・N 通信 P39~

中島 弘美

寒い 2025 年 2 月、第 30 回神戸ルミナリエに行ってきた。震災後 30 年の節目は、さらに緻密なデザインになっているどころも美しかった！会場で流れている音楽も鎮魂の祈りを感じられて染み入る。会場は、十代二十代の人たちも多く、コインをつかって鐘を鳴らすコーナーは順番待ちをした。鑑賞の仕上げは、神戸市市役所上層階にあがり、高いところから全体像を見渡すことだ。室内は暖かく、遠くに見える光も柔らかく映る。ルミナリエがこれからも長く、多くの人に伝わりますように。

カウンセリングのお作法 P36~

篠原 ユキオ

日本の漫画は相変わらず世界をリードしているが1コマ漫画は盛り上がらない。

私が長年にわたって指導してきた京都精華大学のマンガ学部もついに日本で唯一1コマ漫画を教えたカートゥーンコースの募集を停止した。カートゥーンをきっちり教えらるる教員がいなくなったこともあるがこのままでは日本から1コマ漫画の文化が消滅してしまう危機感を感じている。

1コマ漫画にはコミュニケーションツールとしてのアピール力や人の心を癒す温かさ、心を奮い立たせるエネルギーも持っている。

しかし残念なことにそういう作品を生み出してきたベテランの漫画家たちの多くが高齢化し、鬼籍に入るニュースも相次いでいる。

そんな中で私はこの春から大阪と京都の2つのカルチャーセンターで漫画講座を持つ事になった。カルチャーセンターのマンガ講座はなかなか人が集まらないというのが定説だがなんとか1コマ漫画の奥深さと魅力を伝えて行こうと思っている。大阪はサンケイリビングカルチャー倶楽部、京都はNHK文化センター。ともに最寄り駅からすぐの便利な場所だ。さてどうなるか。小学生から大学生まで、若い世代の指導はたくさん重ねてきたが今度は社会人が中心となりそうだ。これまでとは異なる人達との出会いを楽しみにしている。



HITOKOMART
P235~

鷓野 祐介

2月21日深夜、TBS系報道番組「ニュース23」に戦争中の子どもの替え唄についての特集が生まれ、僕も出演しました。これをきっかけに、「自分もこんな唄を歌っ

ていた」という情報が視聴者から寄せられるのを楽しみにしています。

うたとかたりの対人援助学
P176~

松岡 園子

今年の冬、母は一度も体調を崩しませんでした。「しんどい」と電話をかけてくることもゼロ。体は歳とともに不自由になってきた部分もありますが、心は以前よりも強くなっていると思います。二十代から病気でしんどい思いをしてきた母は七十代になってからようやく心の穏やかな時期を迎えられたのかもしれない。

三月に入り寒さも和らぎ、落ちついた毎日を過ごすことができていることに感謝しつつ春を迎えようとしています。

今号は短信のみで失礼いたしますが、また次号以降よろしく願いたします。

統合失調症を患う母と
ともに生きる子ども
休載

脇野 千恵

フリーでの仕事が充実している。長く続けてきたことが、色んな人の役に立っていることにちょっと満足している。

出前性教育の外部講師として出向くことが益々多くなり、ここ1年本当に忙しかった。教材の準備、資料作成など、聞いてくれる人達のことを想像しながら、あれもこれもと欲張ってしまう。人のためとはいえ、実は自分が学ぶことになっているのだなと気がつく。それも心地よいプロセスだと思う。

忙しい中でもあれこれ思いつくことがあり、「おうち性教育ははじめませんか？」というテーマで、地域のパブリックなフリースペースで公開講座を開催してみた。事前申し込みなし、無料、子育てに関わる人、テーマに関心のある人を対象にした。誰も来ないかも？と思いつながら、教材や絵本の展示の準備をした。普通日にも関わらず7名の参加があった。幼児連れの人、看護師、助産師、育休中の教員など。互いに自己紹介をしながら、今の性教育の現状や子育ての中の性教育についての悩みなど、情報交換に大いに盛り上がっ

た。会はなかなか終わらず、とても有意義な時間を共有できた。やってみるものだなと思った。次回は3月、楽しんだ。

こころ日記「ぼちぼち」
休載

岡崎 正明

ついに私の初の著書にして、我が父との合作自伝小説「なにくそ！ライゾウさん～僕のオヤジの負けない物語～」が2月28日に発売となった。



これは戦後すぐ生まれの広島の子で育った男が、持ち前の反発心と情熱で高校中退から借金や離婚、難病や災害を乗り越え、50年以上続く地元の大型和食店を切り盛りしていく、失敗だらけのサクセスストーリーであり、前のめりな家族愛と郷土愛で周囲を無理やり巻き込んで進む、やや迷惑系地方創生ビジネス&ファミリードラマである。

なんだか分かるような分からないような解説だが、内容の方はものすごく読みやすく、気楽に読めることだけは保証する。人生の役に立つかは知らんけど。

中には「それは対人援助と関係ある本なの？」と思われる方もおられるかもだが、これが実は意外と関係があったりするのだ。

もちろんこの本ができた一番の要素は、父が倒れる前に書いていた自伝原稿の存在だが、それだけではこのような形で世に出すことはできなかったと思う。そこには息子である私が家族を学び、様々な家族を通して世の中を見てきた視点と、自分の想いを誰かに伝えるために、このマガジンで長く文章で表現し続けてきた経験が確実に影響している。

中小企業のクセつよ社長の人生と、対人援助職の視点が混ざると、こんな着地点になるのかもしれない。知らんけど。

役場の対人援助論

P117

来須 真紀

先日、児童相談所とその近接領域の研修会 in 徳島に行ってきました。2日間の研修では、どっぷりと家族療法に浸り、新たな知識を得たり、改めて考えさせられたり、元気をもらったり…。

それに付け加えて、行き帰りの道中の同僚とのあれこれ。懇親会でははじめましての出会いお久しぶりの再会や情報交換。中には ZOOM で話したことはあるけれどはじめましての方も。

近年、学ぼうと思えば、学ぶツールは無限にあるけれど、やはり対面でその場の空気を感じながら、学ぶことは、すてきだなと思ったのでした。

教室の窓から

P270

山口 洋典

1995 年をボランティア元年とすると、2025 年はボランティア 31 年です。阪神・淡路大震災がボランティアを大衆化したことに疑いの余地はないでしょうが、一方で 31 年という時の流れは、その反作用としてボランティアに関する過度な制度化を助長させたという指摘もあります。ボランティア 30 年に発生した令和 6 年能登半島地震でのボランティア迷惑論・自粛論はその端緒でしょう。何より「行かないことが支援」という言説には自らの経験や知見を前提にするだけではコミュニケーションが成立しないこともあるということを激しく痛感しました。

そんななか、2 月の末に岩手県大船渡市で山林火災が相次いで発生しました。間もなく東日本大震災から 14 年を迎える中、これまで出会った方々の顔や声、訪れたまちの風景に思いを馳せると、「何かできる!」と「何ができる?」が反復する中、東日本大震災で積極的に活動した認定特定非営利活動法人カタリバが、2 月 28 日に複数の現地団体と連携し、令和 6 年能

登半島地震や奥能登豪雨などで実施してきた災害時子ども支援「sonaeru(ソナエル)」チームにより支援ニーズの収集を始めた、というニュースリリースを目にしました。「あれならできる」あるいは「これをする」、転じて「一緒にいる」、それだけでも支え合いの場が成り立つことを改めて見つけ直すことができました。末筆ながら、被害に遭われた方々には早々に穏やかな暮らしが戻ることを願いつつ、謹んでお見舞い申し上げます。

PBL の風と土

P186~

千葉 晃央



京都市営地下鉄東西線をよく使っている。オーバーツーリズムが話題の京都の交通機関の中で、基本的に空いていることが多い。そのため、赤字路線とか京都市の借金の温床といわれている。それでもユーザーにとっては空いているのがありがたい。私が日常動くことが多い京都市の西の地域(右京区、西京区)の交通手段は脆弱といわれている。京都の中心部に出る路線はあっても、京都市西部で南北をつなぐ電車はなく、バス路線も瀕死とっていい。そんな中、東西線太秦天神川駅からスタートする地下鉄東西線は、嵐電とも接続し、京都の中心部、再開発が進む山科駅、滋賀県大津市まで東に進むことができる。地下鉄東西線から京阪京津線乗り入れ区間は地下鉄から始まり、山を越える山岳列車となり、路面電車となる電車マニアにはたまらない魅力ある路線ときく。大津市の京阪浜大津駅からは北は比叡山口、南は石山寺と移動できる。京都市営地下鉄東西線は山科からは南に向かい六地藏駅で JR 奈良線、京阪宇治線ともつなぐ。京都中心部を迂回して、宇治、奈良まで行くことができる。また、ホ

ームドアも全駅完備で、パンの自販機も多く、平安神宮等のある岡崎地域、市役所のあたり、桜、紅葉で有名な各寺社、醍醐寺、隋心院、勸修寺など、ひっそりと人気スポットにもアクセスでき重宝している。京都駅の混雑緩和のため、山科駅を再開発する計画もスタート。京都の観光に疲れたら、東西線での移動をおすすめします。以上、外国に来たんかというような景色があちこちにある京都からオーバーツーリズム回避術でした。市バスは余裕があるときしか乗らない。

家族支援と対人援助 **ちばっち**

chibachi@f2.dion.ne.jp

090-9277-5049

障害者福祉援助論

P17~

見野 大介

五年ぶりとなる京都高島屋での個展が無事終わり、五年間の成長を感じる一方で、反省点は山積み。もっともっと制作しないと。

ハチドリ器

P4

柳 たかを

「原住民・新住民」

最近、近所のスーパーに買い物に行くと店内ですれ違う人達の話している言葉が多種多様だ。

ここ 2~3 年のうちに大阪市内の我が住まい近くに 30 階建て前後の高層マンションがいくつも建設された。住人が増加するだろうからとコンビニやミニスーパーが増え便利になった。

ただ私の観察では、インバウンド外国人観光客のような短期の滞在者ではなく、定住が目的と思われる「新日本人」だと思う。そして急増していると思う。おそらくそういう政策がとられているということだ。

地下鉄や私鉄の車内放送も数カ国語で放送されている、これも観光客向けだけでなく外国の新住民に向けたサービスだと思わざるをえない。

少し前、ある SNS 記事で我々日本人を「原住民」と呼び、新しく住み始める外国人を「新日本人」と言ってるのを目にした。

まあ…「先住民」と書かれるとさすがにちょっとイラっとくる場所だった。

これからどんどん原住民が減少して、彼ら新日本人が新しい日本住民になっていくのだろうか？ 意味を考えだすと異様で複雑な気持ちが沸いてくる。

ちょっと…心を落ち着けるために今年も初詣に行かせていただいた奈良の大神神社にでも行って、神様の神気に満ちた清浄な空気に浸り心静かに瞑想したくなった。

蜘蛛の糸 P150～

荒木 晃子

自宅から徒歩圏内にある障がい者グループホームの調理ボランティアが、週1回のアルバイトに変わった。隣接する自立支援作業所には平日数十名の若者男女が通所していて、ホームに入居する数名の方々もそこで働いているという。

夕食のメニューを考える時間、調理の最中に「いいにおい！」と〇〇さんが調理場をのぞきに來る瞬間、配膳が済みテーブルに着いたみんなと一緒に食事をとる空間、私にとってはどれも楽しい時間となっている。お料理を「美味しい、美味しい」といいながら口に運ぶみんなの笑顔は、これまでに経験したことのない幸せを感じるひと時でもある。入所者は20代から50代までの男女数名。もとは全員赤の他人だったはずの彼らが、私の眼には家族に映る。時折夕食をつくりに來る私は、さしずめ親戚のおばさんというところか。いい距離間のある斜めの関係は嫌いではない。

先日、理事長から「(本業があるのに)荒木さんはどうしてここに来てくれるの？」と尋ねられ、一瞬言葉に詰まり、はて？と考え込んでしまった。しばらくして、「私の本職は、誰にも語るができない話に耳を傾ける『静』の作業。ここでは、日常を生きることを援助する『動』の作業。なぜか開放感を感じるというか、皆が可愛く、とにかく楽しい。自分の好きな料理を作って喜んでもらえるのですから。」と正直に答えたが、あれで答えになっていたのか今でもモヤモヤしている。その後、「もっと来てほしい」といわれたので、おそらく及第点はもらったのだろう。

一方、本業の方は、5月に東京で開

催される医療系の学会報告の準備に拍車をかけなければ、と少々焦り気味である。

生殖医療と家族援助 P104～

小池 英梨子

最近、猫は1“匹”なのか1“頭”なのか、という話が出てググった。なんとなく“匹”だという認識はあったが、どういう違いなのかすっかり忘れていた。結果、人間の大人よりも大きい動物は“頭”、小さい動物は“匹”で、境としては、恐怖心なく抱きかかえられるサイズかどうか、らしい。子羊は1匹でデカくなった羊は1頭。寝る前に数える羊はアニメ化されているので“匹”だそう。

そうだ、猫に聞いてみよう P162～

寺田 弘志

2月は逃げると言いますが、もう原稿の締め切り日になってしまいました。

幸い今回は期限内に本文のほうはできました。いつも締め切りすぎでの提出で、編集部の皆様すみません。

ただ、短信がまだで、あれこれ書きたいことはあるのですが、このあとレセプト業務や確定申告が続くので、今回は短信はご挨拶だけにさせていただきます。60号発行おめでとうございます！

すごいですね。

これからも末永く対人援助学マガジンが続きますよう、お祈りしております。本文ではパラドキシカルコントラクティングについて書きました。

接骨院に心理学を入れてみた P192～

古川 秀明

般若心経とオープンダイアローグの融合は自分でも思いつきませんでした。だけどやってみるととても親和性が高いと思いました。

般若心経もオープンダイアローグも理性の限界内で語れますが、そこから導き出される答えは、どちらも予測不能で、それこそ般若心経に書かれてい

る「摩訶不思議」なものです。

オープンダイアローグの「対話理論」と般若心経の「色即是空」。

どちらもAIの対角線上にある考え方だと思います。AIが発達すればするほど、オープンダイアローグと般若心経はそれに比例して輝きを増すと思います。

講演&ライブな日々 P127～

原田 希

二年前に叔父が送ってくれた樅の挿し木に初めてのつぼみ！2つ付きました。樅は寒さに強いと言いますが北海道では地植えにはできず、成長に合わせて鉢を変え、培養土を足し、適切な時期に肥料、水は土が乾いてから。多すぎる葉は選んで剪定。つぼみは栄養が回ってこないと付かないようで…2年待ちに待ちながら樅ちゃんに自分自身の北海道での成長を投影するような気持ちでいました。つぼみが出来てもすぐには咲かないそうです。咲かせてみたいですね。



原田牧場Note P223～

サトウ タツヤ

帰って来た__対人援助学縦横無尽、今年も掲載したいと思います。コロナ後の活動が活発になってきたので、年1回は量的に限界かもしれません。なので年2回の投稿を目指します。

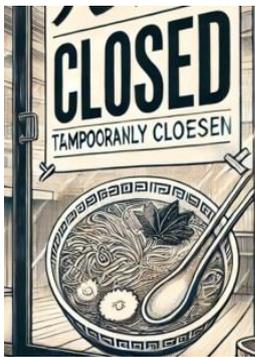
日本質的心理学会の理事長(6年間)、総合心理学部長(4年間)が、ともに2025年3月で終了。それぞれコロナという逆境の中でも皆さんの創意工夫と協力に助けられて無事に仕事を終えられそうです。

2025年4月からは、学校法人立命館副総長(研究・入試・DEI)になります。活動範囲も広がると思うので、そういうこともレポートしていきたいですね。

帰って来た__対人援助学縦横無尽 P77~

野中 浩一

コンビニやスーパーの棚がガラガラになっている光景、2~3年前に初めて目の当たりにしたときはぞっとした。生まれてこの方、食べ物がふんだんにあり、補充され続けている光景しか知らなかったから。



職場の近くのラーメンチェーンに休業の紙が張られ、比較的最近できたお好み焼き屋は張り紙もなくひっそり閉店。昔からある個人ラーメン店のおじちゃんとおばちゃんは今日も忙しく働いているのを見て、少しほっとする。

ひっ迫している人(特に地方の生活者)が急増し、そうでない人(特に為政者や安定職者)との危機意識の乖離が大きくなっているように感じている。地方在住だからだろうか。

島根の中山間地から Work as Life P251~

団 遊

大学時代の後輩が Google を退職した。理由を聞くと「会社が急速につまらなくなったから」と言う。入社当時は「刺激がいっぱいで楽しいと言っていたのに」と聞くと「これでも粘って頑張った方なんですよ」と

言いながら、ターニングポイントは、会社のポリシーが「DONT BE EVIL」から「DO THE RIGHT THING」になったことだと断言した。「邪悪になるな」から「正しいことをやろう」に。ビックデータが価値とされる時代において、Google のような会社は、やろうと思えば悪魔にもなれてしまう。自分たちの力をそのような方向に使ってはいけない、という戒めを胸にそれぞれが可能性を追求できていた時代から、「正しさ」という言葉が出てきたことで、急速に売上・利益の追求集団化が進んだという。正しさはそれほど役に立たないし、正しさに大した力はない——。対人援助の領域で耳にする話を、ここでも聞いたと思った。

人が育つ会社論 P32~

西川 友理

大阪キリスト教短期大学で保育幼児教育者養成に、またそれ以外の場所でも福祉系対人援助職養成に携わっています。

地下鉄の階段を下りている最中に足をくじき、気が付けば2~3段下の踊り場に倒れ込んでいました。「大丈夫ですか?」と何人かの人々が周りに来てくださり、大丈夫、大丈夫と言いながら立ち上がろうとするも、あれ、どうも右足が痛くて動かない。というわけで、1月末から松葉杖生活です。このような姿になって、道の整備が不十分どころ、公共機関のバリアフリーの状況、周りの人が随分ケアをしようと動いて下さることなどに気付かされます。行けないところや出来ない事は多いけど、新たな体験は増えたように感じています。あと半月ほど、この立場だから知ることを沢山体験したいと思っています。

そして、誰かに助けを求めた時に、ほんのりと胸の奥から立ち上がってくる「図々しい」という恥ずかしさに似た感覚。「困った時には“助けて”って言っていいんだよ!」などという言葉もあるし、よく学生にも言いますが、助けてと言えないしんどさと、助けてというしんどさと、この2つのあいだで、自分の居心地のいい“求め方”を自分に確かめるという作業を粛々と続ける日々です。弱さって強さだ、と頭で考えていても、こんな立場になってみると、弱さが恥ずかしさにリンクしている私がまだい

るんだなあ、と味わっています。

福祉系対人援助職養成の 現場から P66~